

MAKUHAL取扱説明書

MAKUHALの使用量はタイヤ1本当たり**16ml**です。

【注意】

従来のシーラントとは全く違い、多く入れ過ぎると走行中にタイヤの中の空気と混ざってスポンジ状になってしまいます。
こうなるとパンク修理キット（TUBELESSCUE）でも直りません。



きれいな膜を張らせるための手順①②③

- ① ウエスをパーツクリーナーで湿らせてタイヤの裏面とビード部を脱脂します。



タイヤの内側は油を含んでいるため脱脂しないとMAKUHALを弾いてしまいます。



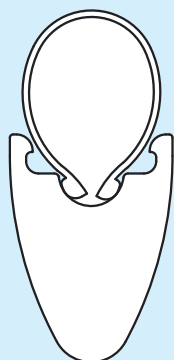
裏面・ビード部をパーツクリーナーで脱脂します。

②

ビード部に膜を張らせます。
ビード部からケーシングに空気が入り込まないように
する重要な工程です。

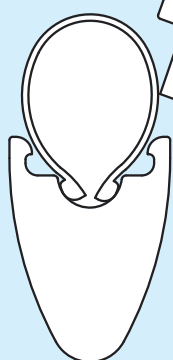
①

ビードを真ん中
に寄せます。



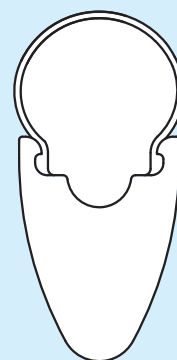
②

リムの隙間に
垂らします。



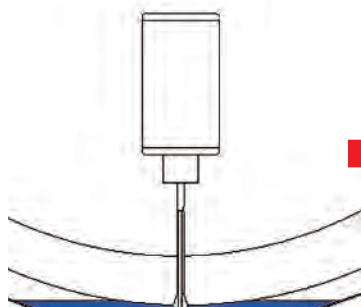
③

ビードを上げます。



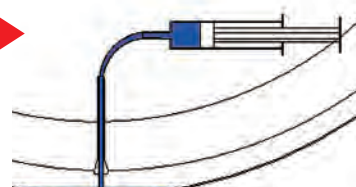
③

ビードを上げてからタイヤの内側に膜を張らせます。



137ml 全て注入します

ゆっくり数回まわす



バルブ穴から
全て抜き取ります

MAKUHALを注射器で抜き取ります。
(使った量が重要で25Cのタイヤで16mlです。抜き取った液は再度使えます。)

理想
の膜

薄く張った膜は丈夫で剥がすのも楽です。
MAKUHALはタイヤの中で乾燥してもTUBELESSCUEで
簡単に修理ができます。



薄くきれいに張った膜は容易に剥がせます。

追加
補充

使用量は**5ml**です。

走行すると浅い傷が無数にでき、その中でケーシングを破った傷が漏れの原因になります。
空気漏れが気になれば薄い石鹼水でタイヤの表面をチェックする必要があります。



この路面に接した面に出来た細かな泡はパンクではありません。

ケーシングに空気が入ると写真のように空気がにじみ出てきます。
傷のどれかがMAKUHALの膜を破れば空気が漏れます。その場合はバルブコアからMAKUHALを
10ml程度入れホイールを数回まわし、注射器でMAKUHALを抜き取る作業をします。(使用量**5ml**程度)